

彦根城&湖東三山&京都紅葉巡り報告

【山行日】2018年 11月 23(金)~25(日)

【集 合】岩舟支所P AM 3:00

【費 用】マイカー1台 31,500円

【メンバー】CL:鈴木ユ、安西、大西、島田、関、
田村ヤ、渡辺ト

11月23日(金) 国宝「彦根城」から金剛輪寺・
西明寺・百済寺の湖東三山を巡り『恋都』に宿泊。

岩舟支所 P3:00=彦根城 9:30/11:20=金剛輪寺

12:50/13:50=西明寺 14:00/14:40=百済寺

15:00/15:30=ペンション「恋都」17:00



10年くらい前のテレビ番組で「湖東三山」を知り、いつか訪ねてみたいと思っていた。



去年の秋に「湖東三山は行かないのですか？」と声を掛けられ、秋の紅葉が美しい時季に計画した。せっかくなので国宝「彦根城」と紅葉の京都見物を併せ、2泊3日の紅葉を巡る旅を企画した。

彦根城の開門時間に合わせ早朝3時に岩舟支所を出発し、新東名高速道から名神高速道を走り9時30分に彦根城に着いた。第一駐車場はすでに満車で、Uターンして第二駐車場に車を止め表門に向かう。表門券売所で入場券を購入し、入口に

ボランティアのガイドが居たので案内をお願いした。

10時50分まで待ってくださいと言うので、その間に博物館のトイレを借りて済ませる。女性ガイドの案内で表門から坂道を登り、天秤櫓や太鼓門、続櫓などの説明を受けながら本丸に向かう。

本丸に上がると天守閣の構造や、城が持つ軍事面の機能等を細かく説明を受けながら最上階まで登る。天守の最上階からの眺望は素晴らしく、内



堀や中堀はもちろん琵琶湖や比叡山まで見渡せる。天守から下り西の丸から井戸曲輪と廻り、天守の裏側から石積みの説明を受け黒門から出て楽々園と玄宮園を見学する。玄宮楽々園は江戸時代に造られた彦根藩の下屋敷で、建築部分を楽々園と庭園部分を玄宮園と称し、国の名勝に指定されている。1時間半丁寧に案内して下さったガイドの方にお礼を言い湖東三山へ向かう。

湖東三山とは琵琶湖の東側、鈴鹿山脈の西山腹に位置する「西明寺」「金剛輪寺」「百濟寺」の三つの天台宗寺院の総称である。わずか7Kmの間にあり、「日本紅葉の名所百選」に選定されている



関西屈指の紅葉の名所である。

途中のラーメン屋で昼食を済ませ、彦根 IC から名神高速道に乗り湖東三山スマート IC で出て、真ん中に位置する金剛輪寺に向かった。金剛輪寺は聖武天皇の勅願寺として、行基菩薩が741年に開山した歴史あるお寺だ。創建当時は宿坊が百余立ち並ぶ大寺院であったが、1573年に信長の焼打ちにあったが、僧侶たちの機知により本堂、三重塔、二天門等

が難を逃れたとの事で現存する。黒門をくぐり受付を済ませて、カエデの紅葉が美しい長い石畳の坂を登って行く。途中の参道にはお地蔵様が並び、その奥に千躰地蔵が厳座されている。

重文の二天門をくぐり石段を登ると、紅葉に彩られた国宝の本堂に出る。

本堂の脇に重文の三重塔が建ち、周りの紅葉とマッチしてとても素晴らしい。本堂にお参りしたら来た道を駐車場まで戻り、次の西明寺に向かった。国道307号線まで戻り、北に向かって走ると10分足らずで西明寺に着く。西明寺は834年に三修上人が、仁明天皇の勅願により開創された寺院である。金剛輪寺同様信長の焼打ちにあったが、国宝の本堂と三重塔、重文の二天門が火難を免れ現存している。総門をくぐると石畳の坂道を登って行き、参道両側のカエデの紅葉がとても美しい。



中門から左の名勝庭園「蓬萊庭」に入ると、真っ赤なドウダンやカエデの紅葉が鮮やかだった。

庭園の中から山道を登って行くと、国宝の本堂や三重塔が建つ広場に出る。本堂に上がり下を眺



めると、紅葉に彩られた三重塔や二天門が美しい。復路は反対側の山道を下り、中門手前で参道に出て往路を下るようになる。駐車所に戻ったら車に乗り、一番南に位置する百濟寺に向かう。国道307号線まで戻り、南に向かって走り左に山道を登って行くと百濟寺駐車場に着く。駐車場が満車で少し待たされたが、大型バス用の駐車場に案内され車を止める。

ここは山門前にお土産店が並び、揚げ饅頭や

おでん等のいい匂いがしていた。百濟寺は聖徳太子の御願により、百濟人のために606年に創建された古刹だが、はっきりした史実は無く定かではない。鎌倉室町時代は三百余の塔頭が並び、誠に荘厳な大寺院であったと記されている。しかし幾度か火災に遭い、古建築物の多くを焼失し、現存する建物は1584年堀秀政により再建された以降のものである。

本坊の喜見院は昭和15年に、移転改築されたものである。庭園は「天下遠望の名園」と称され、池



泉回遊式の見事なパノラマ庭園である。その庭園を鑑賞しながら歩き、巨石や紅葉が織りなす庭園は実に見事であった。予定の半分の時間で見学が終了し、お土産屋で揚げ饅頭を買い食べてから今宵の宿ペンション「恋都」に向かう。恋都は食事が出ないので、途中のスーパーで夕食を購入してからチェックインする。4年ぶりにマスターと再会し、宿泊の手続きを済ませる。入浴が済んだら食堂に集まり、各自スーパーで買った夕食を食べる。

京都の夜景を眺めながら、我輩は刺身とから揚げ、肉じゃがを肴に焼酎を飲み、酔っ払ったら部屋に戻って早々に就寝した。

11月24日(土) 伏見稲荷から東福寺、泉涌寺、智積院、三十三間堂を歩いて巡り、JR 奈良線で「いなり駅」まで戻って車を回収し、途中東寺を見学して「恋都」に戻る。

「恋都」6:00＝吉野家 6:05/6:40＝伏見稲荷 7:00/8:40～東福寺 9:00/10:40～泉涌寺 11:10/11:50～智積院 12:10/13:00～三十三間堂 13:15/14:00+++伏見稲荷 14:30＝東寺 14:50/16:10＝「恋都」17:00

この3連休は京都が1年で一番観光客が多い日なので、朝早く出かけることにする。朝5時に起床

し、準備を整えたら出発し近くの吉野家で朝食を食べる。それぞれ好きなものをオーダーし、温かい朝食を美味しくいただいた。今日最初の見学場所の伏見稲荷大社に着くが、早朝にもかかわらず駐車場はほぼ満車だった。一番奥の止めにくい場所が空いており、かろうじて駐車することが出来た。本殿を参拝したら、朱の千本鳥居から稲荷山を巡るコースを進む。すでに多くの観光客で賑わっており、良く見る



とほとんどが外国人観光客である。今回は写真



撮るのも大変なくらい大勢の人が歩いている。幻想的な雰囲気の中をグングン進み、四辻まで登って休憩を取る。ここから時計回りに稲荷山山頂の一ノ峰から、三ノ峰まで周遊するが我輩はトイレをもようし先に下ることにした。本殿下の大鳥居で待ち合わせ、無事皆さんと合流し次の東福寺に向かう。

車で向かう予定だったが、あまりの混雑にここから歩いて行くことにした。東福寺は京都を代

表する紅葉の名所で、この時季は多くの観光客で賑わう寺院だ。国宝の「山門」を見学し、紅葉で名高い通天橋の入場券を買い、庭園に入ったら人で溢れている。通天橋に行く道が3本あり、そのすべてに大行列が出来ていてほとんど動かない。

一番左の列に並ぶがほとんど動かず、O嬢が「もう出ようよ！！」と怒るのをなだめ、見事な紅葉を見ながら耐える。40分くらいでようやく通天橋の入口に着くが、ここから開山堂を一周して、ようやく



通天橋に進むことが出来た。

通天橋も大渋滞で、係の人が「写真を撮らないでください」と叫んでいたが、外国人は平然と写真を撮っていた。紅葉を見ているのか人を見ているのか解らない状態だったが、紅葉は素晴らしかった。方丈に回ると、こちらは人が少なかったので見学し、昭和の名作庭家・重森三玲作の「八相の庭」をゆっくり楽しむことが出来た。東福寺から次の泉涌寺に向かうが、観光客が駅から

東福寺に向かって列をなしていた。細い道をくねくね曲がりながら歩き、泉涌寺に着いた。泉涌寺は

皇室の菩提寺であり、多くの天皇や皇族の墓所がある。境内に入るとすぐに蕎麦処があり、「お腹が空いたので食べたい」と言うので昼食を食べる。かけ蕎麦を男性は大盛りを、女性達は普通盛を頼み、会計したらどちらも500円だった。女性達は「大盛りを頼めばよかった」と少し不満そうだった。仏殿・舍利殿と伽藍を見学し、御座所に上がろうとすると「見ないでいい」と言うので、楊貴妃観音を見学して智



積院へ向かう。智積院は真言宗智山派の総本山であり、長谷川等伯の障壁画や利休好みの庭は素晴らしい。ここから三十三間堂まで歩き、千体の観音菩薩立像を見学する。千体観音像も見事だが、国宝「雷神と風神象」「観音二十八部衆像」も素晴らしく見応えがあった。ここから伏見稻荷神社



に戻るが、皆さんお疲れのようなので東福寺駅まで行き、JRに乗っていなり駅まで行く。

伏見稻荷の駐車場で車を回収し、時間が早いので T村さんが是非行きたいと言う東寺へ向かった。「混んで駐車場に入れなかったらパスね」と言ったが、すんなり駐車場に入ることが出来た。まず国宝の金堂を見学し、薬師三尊像や十二神将を見学し隣にある講堂を見学する。白亜の壇上には大日如来を中心とした五

智如来をはじめ、五菩薩、五大明王、四天王等二十一体の仏像が安置されている。

いわゆる弘法大師の密教の教えを表現する、立体曼荼羅の世界だ。そこから国宝「五重塔」の行列に並び、初層内部の特別公開を見学し車に戻る。T村さんも満足したようで、「ほんと来て良かった」と喜んでいて。昨日と同様スーパーに寄り、各自好きな夕食を買って宿に戻った。

入浴したら食堂に集合し、買って来た夕食を温めていただく。我輩は本日も刺身と天ぷら、煮物を肴に焼酎をいただく。皆さんとお話ししながら飲み、焼酎が空になったら部屋に戻って就寝する。

11月25日(日) 清水寺から八坂の塔、高台寺、八坂神社、円山公園、知恩院、南禅寺、銀閣寺まで哲学の道を歩き、銀閣寺を見学後車に乗り岩舟支所へ帰着する。

「恋都」6:00＝吉野家 6:05/6:40＝清水寺 7:00/7:40～八坂の塔 8:00～霊山観音 8:30/8:50～高台寺 9:00/9:30～八坂神社 9:45～円山公園 9:50/10:00～知恩院 10:05/10:30～南禅寺 10:50/11:20～喫茶店 11:30/12:00～銀閣寺 12:30/13:30＝富士川 SA18:00/18:40＝岩舟支所 P22:15

朝5時に起床し、準備が出来たら食堂でお茶を飲んで車に行き出発する。昨日と同じく吉野家に行



き、好きなものをオーダーし朝食をいただく。

朝食や牛丼に、サラダや納豆を付けても500円くらいで、とてもリーズナブルだ。

清水寺まで行って皆を入口で降ろし、我輩は銀閣寺近くのコインパーキングへ車を置きに行く。

皆さんは清水寺を見学し、八坂の塔から高台寺まで歩き、我輩と合流する予定だ。

我輩は銀閣寺近くまで行き、安いコインパークを探し車を止める。そこから通りに出てタクシーを拾い、

高台寺に向かった。タクシーが直ぐに拾え、道路も空いていて高台寺に7時30分に着いた。

O嬢にTELするが応答がなく、八坂の塔に向かって歩いて行くと、二年坂でバツリ出会うことが出来た。八坂の塔を見学し、「高台寺は9時からなので、コーヒーか甘酒を飲もう」と言うが、「まだお腹いっぱいだから」と足並みがそろわない。とりあえず高台寺まで行き、隣にある霊山観音が8時30分開門なので見学する。9時から高台寺が開門し、拝観券を購入し境内に入る。

高台寺は豊臣秀吉の夫人、北政所が秀吉の菩提を弔うために開創した寺である。庭園は小堀

遠州の作によるもので、その石組は見事で桃山時代を代表する庭園である。庭園を登ると利休の



意匠と言われる、傘亭・時雨亭の茶室が建つ。

高台寺を出て「ねねの道」を歩き、八坂神社に向かう。八坂神社の本殿を参拝し、境内を右に進み円山公園に行く。T村さんが公園内の茶店で甘酒を飲みたいと言い、ベンチで休憩して甘酒や菓子をいただく。公園のシンボル「枝垂桜」の先で左に進み、広い通りに出た所が知恩院。知恩院は浄土宗の総本山で、日本最大スケールの三門が出迎えてくれる。巨大な三門をくぐり急な階段を登ると

大きな御影堂があるが、現在は修復工事中で中には入れない。坂を上がって大鐘楼を見学したら、次の南禅寺に向かう。三条通りに出てインクラインをくぐると観光客が多くなり、皆南禅寺に向かって歩いて行く。南禅寺三門は日本三大門の一つで、「絶景かな」であまりにも有名な寺院である。

ここも大勢の観光客で賑わっており、三門や方丈に上がっての見学はパスし脇にある水路閣に向かう。映画などでもおなじみの水路閣は、古代ローマの水道橋を模して造られたレンガ造りの建造



物で、今でも現役で活躍する水路橋である。橋の上まで上がり水路閣の縁を歩いて見学する。南禅寺の紅葉も見ごろで、多くの観光客が紅葉と三門をカメラに収めていた。ここから「紅葉の永観堂」と異名を持つ永観堂に向かい、三千本の紅葉と有名な「見返り阿弥陀」を見る予定だったが、混雑しているのと拝観料が千円と高いので〇嬢に却下された。「お腹が空いた」と言うので、近くのレストランに入り

昼食を食べることにした。小さなレストランは大繁盛で、我々はかろうじて入れたが後から来た客は断られた。30分ほど待たされたが無事昼食を食べることが出来、皆さんも少しゆとりが出たようだ。

哲学の道を歩き、最後の見学地の銀閣寺に向かう。桜のときよりは観光客は少なく、少しさみしい感じが歩くのには丁度よい。銀閣寺は総門から中門への参道が素晴らしい。白砂の参道の両脇に設けられた大刈込の生垣と、銀閣寺垣と呼ばれる竹垣の、調和がとても美しい。そして銀閣寺と呼ばれる由来となった国宝・観音殿(銀閣)と、銀沙灘・向月台を配した庭園が調和し人々の心をとらえて止まない。順路に従い美しい庭園を周遊し、山の中腹の展望所から見下ろす観音殿は格別に美しく見える。見学が終了したらお土産を買い、パーキングまで歩いて車に乗り帰路につく。



途中、東名高速道が事故渋滞でノロノロ運転を強いられたが、新東名高速道から東名高速道に迂回し、富士川 SA で夕食を食べたのが正解で、予定より15分遅れで岩舟支所に無事帰着出来た。

